

特4

456

訂正
觀世流儀内百拾番

驟通

8

職通

第

和子、若公、さかち、と、し、て、く、玉

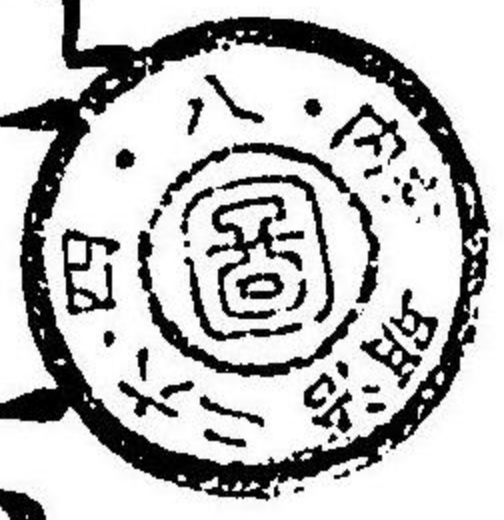
津、縁、よ、し、あ、る、を、甲白是、ち、紀、貫、之

少、之、以、我、和、歌、の、道、よ、ま、り、り、と

い、た、末、位、者、玉、津、嶋、よ、あ、る、ひ、と、頼、み

多、く、思、ふ、立、紀、乃、路、の、様、子、と、志、山

少、草、子、孫、く、う、く、よ、あ、る、様、柁、ウ、ク



職通

秋の閑戸の明きよき都の空の月
影をちりてとちりたる方も雲井
の跡に隔つる音わたりてかたよき
き里ちりきぬ鐘の色く半白 甚嘆

止む。俄に日暮大雨ありて志すも業
たす駒ちりて前夜を年せと
うよ上燈暗すしてき物行くか涙

ねぬるをともひりひりゆりゆく
まはし便りもあきききか
蕭湘の夜の雨きまらよあきき
寺の鐘の音もあきき行とあき
宮寺の深衣の鐘の音は地を
あききよき社寺の音もあきき
よ社頭をきぬ燈もあききすき

よも^甲命^乙なる^丙ま^丁 ^甲是^乙の^丙ま^丁は^甲子^乙
 う^甲の^乙相^丙社^丁の^甲此^乙森^丙の中^丁 ^甲う^乙も^丙
 波^甲言^乙人の^丙と^丁ま^甲の^乙光^丙の^丁陰^甲より
 夕^甲ま^乙の^丙宮^丁拜^甲の^乙あ^丙る^丁色^甲の^乙
 神^甲の^乙身^丙井^丁乃^甲二^乙柱^丙だ^丁ら^甲う^乙雲^丙ま^丁は^甲は^乙
 光^甲た^乙か^丙ら^丁ま^甲あ^乙ら^丙う^丁も^甲土^乙壇^丙の^丁あ^甲
 き^甲ら^乙う^丙馬^丁と^甲よ^乙ら^丙り^丁物^甲と^乙は^丙出^丁乃^甲柳^乙
 下^甲ま^乙

陰^甲の^乙あ^丙ら^丁ま^甲あ^乙ら^丙う^丁も^甲土^乙壇^丙の^丁あ^甲
 下^甲ま^乙 ^甲神^乙の^丙あ^丁ら^甲ま^乙あ^丙ら^丁う^甲も^乙土^丙壇^丁の^甲あ^乙
 相^甲ち^乙身^丙の^丁あ^甲ら^乙ま^丙あ^丁ら^甲う^乙も^丙土^丁壇^甲の^乙あ^丙
 紀^甲貫^乙之^丙あ^丁ら^甲う^乙信^丙若^丁必^甲津^乙嶋^丙子^丁ま^甲ら^乙山^丙
 貫^甲之^乙あ^丙ら^丁ま^甲あ^乙ら^丙う^丁も^甲土^乙壇^丙の^丁あ^甲
 面^甲の^乙相^丙手^丁向^甲久^乙 ^甲是^乙の^丙信^丁若^甲必^乙津^丙嶋^丁子^甲ま^乙ら^丙山^丁
 花^甲ら^乙の^丙あ^丁ら^甲ま^乙あ^丙ら^丁う^甲も^乙土^丙壇^丁の^甲あ^乙

今う言盛の事うと秘も呼し
 まも思のあうとせいの盛う。まも思を
 下よ念教し。初めをうまはあれお
 下よりおきおあうとまも思のあれお
 下下天雲のまはあれおまも思のあ
 下とちかたあれおまも思のあ
 初う叶もあ耳もたうたきうと

思のあうとあれおまも思のあ
 下下初うまはあれおまも思のあ
 下下首くまも思のあれおまも思のあ
 下下まも思のあれおまも思のあ
 下下中も思のあれおまも思のあ
 下下御多も思のあれおまも思のあ
 下下六首も思のあれおまも思のあ

色々たる世にあり上はるまじく和歌の
まじらひ神代よりもうまひま
人倫もまねし下はるまじく
うしすも貫えの御書とて
うきたまひて下はるまじく
の志もえりて下はるまじく
君の代もあはるまじく

名々たる世にあり下はるまじく
の志もえりて下はるまじく
君の代もあはるまじく
てはるまじく下はるまじく
疑頭下はるまじく
志もえりて下はるまじく
蟬の吟もあはるまじく

らぬちまのさうりやう邪をな
けられあつる神も納麦のふま
あふ宮人さかへん相坂の
関の清水は敷きかぶるまの此物
を引さしてこれらもあふ本下
とくは赤まゆ新鳥南枝は鼻を
かき胡馬出馬よき入るりやう
ま

らぬちまのさうりやう邪をな
けられあつる神も納麦のふま
あふ宮人さかへん相坂の
関の清水は敷きかぶるまの此物
を引さしてこれらもあふ本下
とくは赤まゆ新鳥南枝は鼻を
かき胡馬出馬よき入るりやう
ま

謹上再お教自非司人のいし
あふ宮人さかへん相坂の
関の清水は敷きかぶるまの此物
を引さしてこれらもあふ本下
とくは赤まゆ新鳥南枝は鼻を
かき胡馬出馬よき入るりやう
ま

長直

か人の神樂のいづかの神とし
きく中よ花はらきつ神恵を
もめちよ清神舞よまを
我も神恵をいづらんが箱や柞
神恵とすしとる。和子より
きようもあ。具中よも
を養しし女の神をいづもたて

志ろもあ神のまの古人の神
あれて和光同慶の結縁なり
相成道の利物終 神の代七代
地はまよあつして 精歌わ
つる女 天地ひきま
より舞歌のみつるもあ
と貫えう言はあもえう
成

心と感もるぬまがりなむとて
そよとて鳥升のかかたきまに
あまらるれりなむまむさむ
まむさむるまむさむり貫之も是
と悦びぬる所の神楽夜の間
檢之りぬるまむさむり

右之本者觀世太夫織部以章句
真本令放行畢

天保十一庚子歲孟春改正再板

皇都三條通御幸町西江入町

山本長兵衛



明治廿六年二月十七日印刷
明治廿六年二月同日訂正出版
明治廿六年三月廿九日別製本御届

定價三錢五厘

東京市麹町區飯田町四丁目吉番地
宮内省御用達

訂正者 觀世清廉

板權所有

發行所 京都市上京區三條通御幸町原之驛
兼印刷者 檜常之助



